科目名	医療安全学研究方法論				担当教員名	和佐　勝史、別所　一彦、　石松　一真、 大村　優華、石原　啓之、平河　勝美、廣瀬　稔
該当DP	2	単位数	1単位	必修	配当年次	1年次・第1セメスター（前半）
曜日・時限		金曜日・6限目			教室	オンライン授業

授業概要

昨今、医療の多くの領域で、様々なガイドラインや指針などが作成され、これらに基づくEvidence-Based Medicine(EBM)の実践は、医療の質の向上や、医療安全に繋がっている。医療安全学の研究は広範であり、また職種によっても方法論は大きく異なる。本講義は、医療安全領域における研究方法論について、医療の質・安全の観点から、オムニバス方式で概説する。

到達目標

1）医療安全学研究に必要な基本的知識を理解し、説明できる。
2）研究計画と修士論文の作成の基礎となる考え方を理解し、説明できる。
3）研究倫理の重要性を認識し、説明できる。

回	日程	見出し	内　　容	実践的な授業方法
1	4/7	医療安全学研究とは （和佐・別所）	本研究科が主導する医療安全学の基本理念を紹介するとともに、わが国の医療の質・安全に関する研究領域や動向、これに関連する研究方法論について概説する。	
2	4/14	研究倫理と研究遂行上の課題 （別所）	医療安全学領域の研究に必要な研究倫理の考え方について講義する。修士論文研究遂行上の倫理的課題について具体的に説明し、討議により理解を深める。 ［ディスカッション］	○
3	4/21	医療安全研究の枠組み （石松）	医療安全の研究の枠組みを概説する。研究方法をはじめ、研究計画書の書き方についても説明する。その他、受講生とのディスカッションを交えながら、研究への取り組み方について考える機会を持つ。［ディスカッション］	○
4	4/28	リサーチクエスチョンと研究デザイン （石松）	臨床実践の中で生じた疑問を文献検討を経て科学的に検証可能なリサーチクエスチョン（RQ）としてモデル化し、研究デザインを選択する方法を概説する。また、討議を交え自己のRQや研究デザインについて具体的に考える機会を持つ。 ［ディスカッション］	○
5	5/12	医療安全への量的アプローチ （大村・石原）	医療安全に関わる研究の具体的な例を紹介しながら、量的研究の組み立て方や考え方を学ぶ。［ディスカッション］	○
6	5/19	医療安全への質的アプローチ （平河）	医療安全に関する医療従事者の認識や経験など、安全の心理社会的側面に着眼し、調査して問題を記述する研究方法としての質的アプローチ法について概説する。質的データの特徴や主な解釈・分析方法を紹介する。［ディスカッション］	○
7	5/26	医工学からみた研究デザイン （廣瀬）	医療機器の取扱い上のミスを防止するための基本は、医療機器開発段階でミスを起こしにくいデザインにすることであるが、設計段階では気付かないこともある。これを補完するのが機器使用者の気付きであり、これがより安全な医療機器の開発につながる可能性がある。講義では過去の事故事例等を紹介しながら、更なる安全向上のために具体的にどうすれば良いかを考えてみる。［ディスカッション］	○
8	6/2	共同研究の実施方策 （廣瀬）	医療科学における研究は、医療機関内だけではなく関連産業界との連携（医工連携）で行う共同研究の形を取ることが多い。この場合、医療機関の研究者は医療安全の観点から指摘することが重要になる。講義では、具体的な例を紹介しながら、共同研究の方策等について説明及び考える機会を持つ。［ディスカッション］	○

キーワード	医療安全学研究、量的・質的研究、 リサーチクエスチョン、研究デザイン、 研究倫理	履修条件	なし
教材等　教科書（要事前購入）	教科書は特に指定しない。講義で使用する資料は適宜配付する。		
教材等　参考書（任意購入）	特になし		
成績評価方法（%） ［評価のポイント］	レポート（80%）、授業・討議への参加（20%） ［研究方法を理解し、研究計画を立案するための基礎的知識の修得を評価します。］		
授業時間外で必要な学修	授業内容を理解したうえで、修士論文のための研究計画を立案できるように、しっかり復習してください。		
学生へのメッセージ	積極的に授業に参加してください。		

※　授業の日程については変更する場合があります。